

平成 28 年 度

旭丘中 学校便り

第 10 号

練馬区立旭丘中学校：発行 2月

読書の習慣化

校長 南 俊彦

近所の書店が閉店したり、出版業界の不振など活字離れが進んでいるように思います。本校の年度末アンケートでも保護者の方は子ども達は本を読んでいない、図書室の利用率が低いとの回答が多く見られます。全国学校図書館協議会と毎日新聞社が実施している「学校読書調査」によると中学生の1ヶ月の読書冊数は2007年、3.4冊であり、2016年は4.2冊と増加傾向にあります。データを見る限りでは、中学生の読書離れは進んでおらず、むしろ伸びていると言えます。2000年頃から読書冊数が伸びているのは、千葉県私立高校が1988年に始めた「朝の10分間読書活動」だと言われています。この活動の広がりが読書をしない「不読者数率」を大きく減少させる原因だと考えられます。2016年の1ヶ月間の不読者数率（冊数ゼロ冊回答者率）は小学校4.0%、中学校15.4%、高校生57.4%でした。本校も「朝読書」の時間を設け8時25分から35分の10分間静かに本を読んでいます。「朝読書」を通じて、朝落ち着いてスタートする。本を読む習慣を身に付ける。本に親しむなど色々な目的があります。最近は家庭でも本を目にしたり、手に取ったりする機会が少なくなりました。読書の習慣化はとても大切だと考えています。習慣が身に付くというのは、面倒くさいという思いに打ち克って、毎日が苦にならなくなることです。毎日やっていくと、生活のリズムの中に組み込まれて行くということです。また東京都の28年度「児童・生徒の学力向上をはかるための調査」によると朝読書を実施している学校は未実施の学校に比べ平均点が高い結果が出ています。国語だけではなく5教科すべてが上回っていることを考えると、読書が学びの土台になっていることを改めて感じます。読書の意義は「子どもが言葉を選び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」（子ども読書推進法第2条）です。読書を習慣化し、生活のリズムに組み込んでいくことを期待しています。また魅力ある図書室にするために、今年度は図書館支援員の方を区より配置していただいています。新規購入の本の紹介、季節ごとに関連した本の紹介をしてもらうなど情報を発信しています。支援員の方から「紹介した本を図書室に来て手に取って見てくれました」「放課後図書室に立ち寄ってくれる生徒が増えています」などの報告があり成果も現れています。来年度も図書館支援員の配置が継続されました。図書室の一層の利用を期待しています。



旭丘中学校の教育活動に関するアンケート調査について（報告）

平成28年度も残り1ヶ月程度を残すのみとなりました。学校では、平成29年度の教育課程を作成しているところです。新年度の教育活動と生徒の学校生活をよりよいものにするため、昨年の11月に保護者の皆様と生徒対象に本校の教育活動についてご意見をうかがうアンケート調査を実施いたしました。

平成26年度に、アンケート項目を見直し、生徒・保護者・教員に同じ質問を設定しましたので、それぞれの立場からの旭丘中の教育活動に対する思いを集約することができています。この結果は、生徒・保護者・地域の皆様にお知らせするだけでなく、教職員全体で共有し、今後の学校運営に役立てていきたいと考えています。ご協力に感謝申し上げます。

学校評価アンケート実施内容

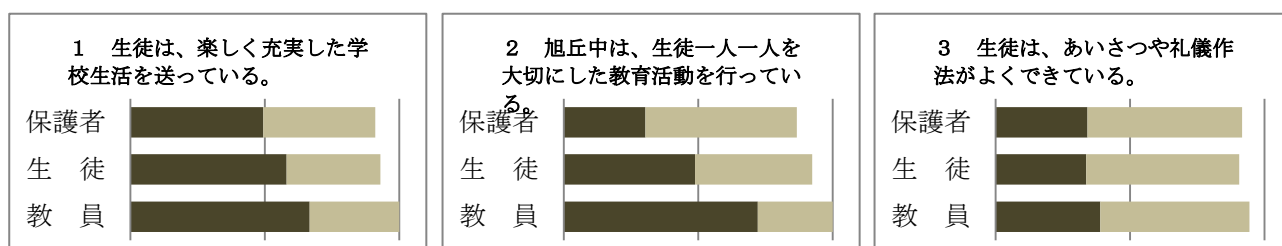
- 1 実施方法 マークシートによる意識調査
- 2 実施時期 平成28年11月
- 3 調査対象 全生徒178人 全校保護者178人 教職員18人
- 4 回収率 生徒96.6%（172人） 保護者88.8%（158人） 教職員100%
- 5 調査の概要
 - ・ 生徒・保護者・教員に同内容の質問項目を、22項目としました。
 - ・ 回答は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4つの選択肢を用意しました。ただし、保護者については、「わからない」も設定しました。

以下のグラフでは、

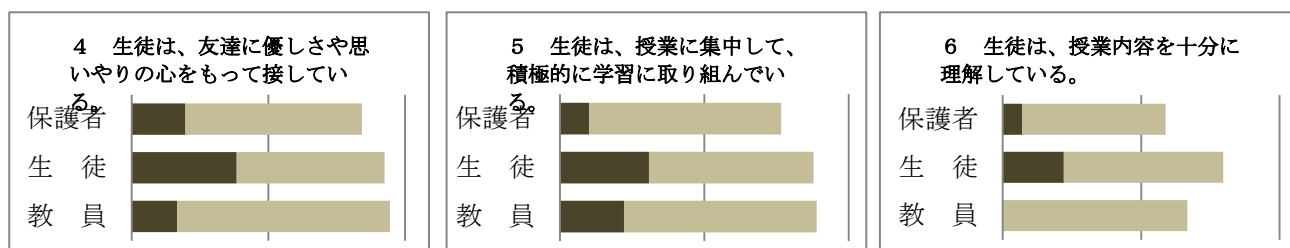
そう思う

どちらかといえば
そう思う

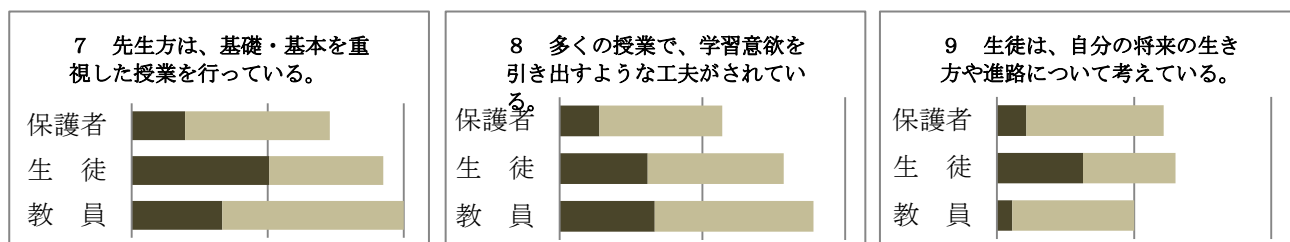
を表示しています。



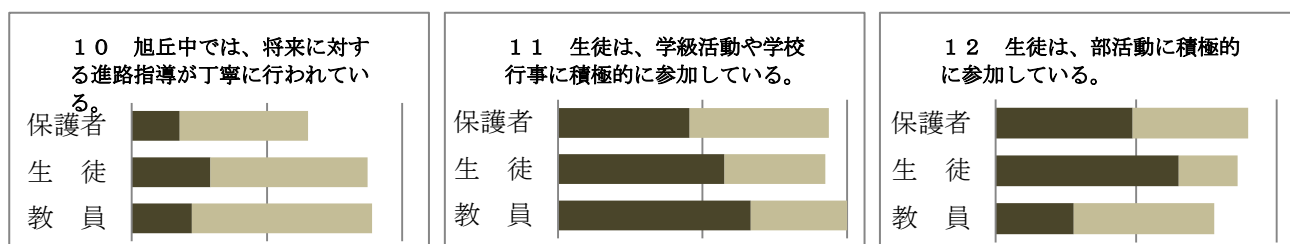
- ①「充実した学校生活」三者とも高評価です。今後も継続して、生徒の学校生活の充実を目指していきます。
- ②「一人一人を大切にされた教育活動」三者とも肯定的評価は高いですが、保護者からの強い肯定が低いです。学校の取組に関する情報発信を増やし、理解していただく必要があります。
- ③「あいさつ」来校された方々からは、よくできていると褒められることが多くあります。今まで以上に、生徒会中心のあいさつ運動や教員からのあいさつなど、積極的に行っていきます。



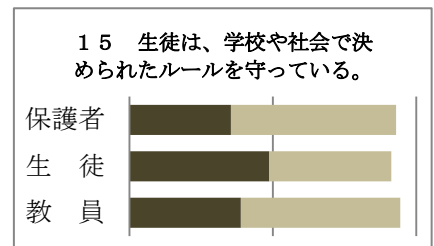
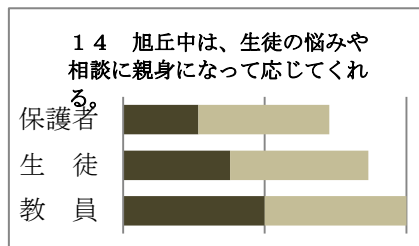
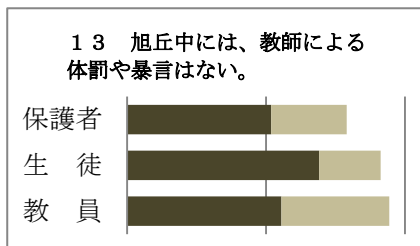
- ④「優しさや思いやりの心」生徒の90%以上は肯定的です。教員は、そのような場面を褒める機会としてとらえていきたいと思います。
- ⑤「積極的に学習」生徒の肯定的評価は高いですが、強い肯定を増やすために、今年度行った授業アンケートを活用して、授業改善に取り組んでいきます。
- ⑥「授業内容を理解している」生徒の80%は理解していると考えていますが、強い肯定が少ないです。教員は、生徒が十分理解する授業を展開することを目指して、今年度行った授業アンケートを活用し、授業改善に取り組んでいきます。



- ⑦教員が考えている授業内容が、生徒・保護者に伝わっていないようです。指導計画や授業のねらいをしっかりと伝えていく必要があります。
- ⑧「学習効果を引き出す工夫」生徒の80%は理解していると考えますが、強い肯定が少ないです。今年度行った授業アンケートを活用し、授業改善に取り組んでいきます。保護者の「わからない」が多いため、授業時の工夫などを学年だより等でも発信していきたいと思います。
- ⑨「将来の生き方」全体的に肯定的評価が低いです。学活や道徳、日常生活の中で、進路に関する話をする機会を意識的に増やしていきます。



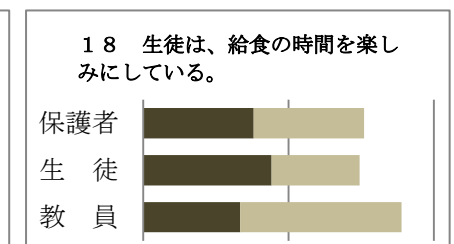
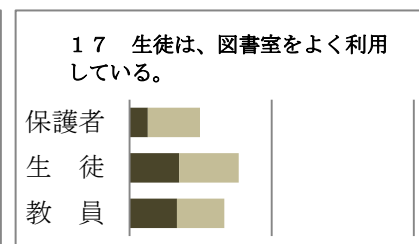
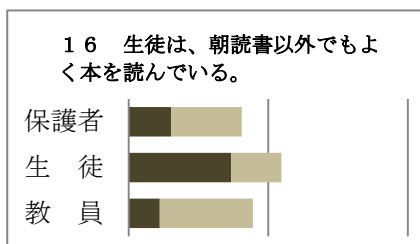
- ⑩「進路指導が丁寧に行われている」学年だより等を活用して、保護者への情報提供の機会を増やしていきます。
- ⑪「学校行事に積極的」三者とも高評価です。生徒が一生懸命行事に参加している姿は、地域からも評価されています。
- ⑫「部活動」生徒や保護者は積極的に活動していると感じています。教員はさらに高い取り組み姿勢を求めています。



⑬「体罰や暴言はない」体罰等を起こさないことはもちろん、生徒・保護者からの「そう思う」が100%になるように、体罰や暴言をしないことを、日々、意識して指導します。

⑭「生徒の悩みや相談」生徒の90%近くが肯定的ですが、より丁寧に対応していきます。

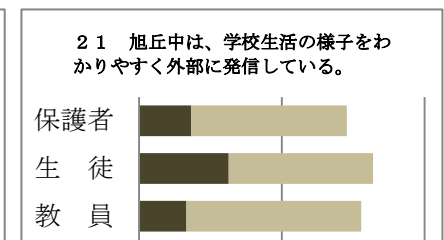
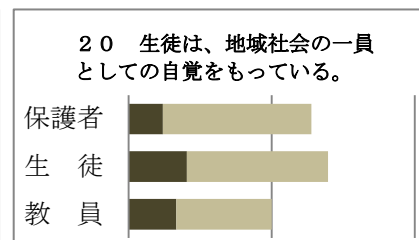
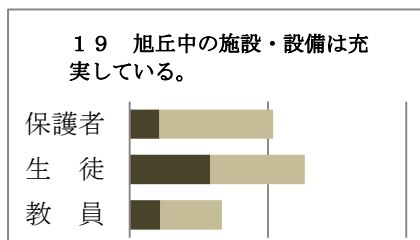
⑮「学校や社会のルール」生徒は、学校のルールをきちんと守っています。



⑯「朝読書以外の読書」朝読書の習慣は付いています。その習慣を別の場面でどうやって延ばしていくかが課題です。図書館支援員との連携を深めていきます。

⑰「図書室の利用」生徒の肯定的意見が50%にも達していません。蔵書の宣伝や利用方法などさらに工夫をしていきます。保護者にとっては見えにくく、「わからない」内容です。

⑱「給食の時間」生徒は好んで給食を食べています。残食量や偏食の生徒への対応を考えていきたいと思います。



⑲「施設・設備の充実」来校者からは、「古い校舎ではあるが、きれいに使っている」と褒められることが多くあります。学校として可能な範囲で対応していきます。

⑳「地域社会の一員としての自覚」地域合同防災訓練などを通して、中学生の活躍が期待されていることを伝えています。保護者にとっては見えにくく、「わからない」内容です。

㉑「学校生活の様子の発信」月に1回の学校だより、週に1回の学年だよりを継続していきます。ホームページの更新に積極的に取り組んでいきます。

㉒「小中一貫教育」部活動体験、乗り入れ授業などに取り組んでいますが、さらに情報を発信していきます。

